



関係人口を
育てる
【市民活動支援】

2025 地域の新たな担い手育成プロジェクト

～ 平時を支え非常時に備える『サポーターローリングストック』のしくみづくり～

実施者

＜実施者＞

産学協働地域活力創造事業 地域コーディネーター 青木 秀幸 (千葉工業大学非常勤講師, 合同会社いもんだ)

a. 合宿ボランティア: 千葉工業大学 工学部 情報通信システム工学科、先端材料工学科 / 先進工学部 未来ロボテクス学科 / 情報科学部 情報工学科 / 情報変革学部 情報工学科 / 社会システム科学部 金融・経営リスク科学科から 計5学部6学科から計14名の学生

b. プロボノ: 千葉工業大学放送研究会5名

＜協働パートナー＞

【行政】南房総市 市民生活部 市民課 (市民協働G、富山・丸山・三芳地域センター), 観光プロモーション課、商工課、企画財政課、教育委員会、富山小学校

【企業等】みねおかいきいき館 *実施サポート 千葉工業大学新習志野・津田沼学生担当

【市民団体等】各地区の地域づくり協議会 (富山、三芳、丸山、白浜), 丸山農業まつり実行委員会, フラワーマーチ実行委員会, 防災技術研究会, 南房総市社会福祉協議会、白間津大祭実行委員会、南房総市花畑再生プロジェクト協議会ほか

1. 背景・目的

南房総市では、2019年の令和元年房総半島台風をはじめ、近年の災害を通じて「平時に築かれた人と人との関係性」が、非常時の被害軽減に直結することが改めて浮き彫りになった。とりわけ千葉工業大学との協働では、それまでのボランティア活動や実習、研究活動で育まれてきた信頼関係が、復旧・復興の現場で新たな力として機能した。

この経験を踏まえ、本プロジェクト (以下PJ) は2020年より、「ボランティアを通じて生まれる地域と学生の関係性」を“地域の資源”として再定義し、その関係性を平時の地域活動のサポーターとして、また災害時の担い手不足を補う力として活かす取り組みを続けてきた。そして2024年度からは、地域側がその関係性を平時から“蓄え (ストック)”, 継続的に“育て (つぎ足し)”, 非常時に備えるという新たな考え方を「サポーターローリングストック (以下サポーターR.S.と略す)」として独自に提示 (図1)。この概念を軸に持続可能な仕組みづくりを本格的にスタートさせた。

本年度は、その仕組みの基盤構築を主な目的とし、以下の3つの側面から取り組みを進めた。

① 平時の地域活動の応援

「市民活動」「地域産業」「防災教育」など、担い手不足が深刻な分野において、ボランティアやプロボノを通じて現地団体の活動継続や新たな事業展開を支援し、その成果を確認。

② 非常時に備えた人材育成

* もともと「ローリングストック」とは、普段の食品を少し多めに買い置きしておく、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法を意味する。ここでは、食品を「サポーター人材との関係」におきかえた災害への備えの取り組みを差す。造語。

現地での実践を通じて、災害時に復旧・復興の地域の担い手の役割を補完できる大学関係人口を育成するとともに、プログラムの有効性を検証。

③ 持続可能な仕組みづくり

大学のボランティア単位認定制度を組み込んだ効果的な仕組みの構築を試み、課題整理と改善策を検証。

2. 活動内容

(1) 平時の地域活動応援

本年度は関係者からの要請により「メンバーの高齢化や減少」など担い手の課題に直面している各団体に対して学生チームによる現地活動応援を行った (表1)。

a. 合宿・週末『ボランティア』【全学部共通 / 選択必須教養科目対応】

現地での当ボランティア活動は、千葉工大の「社会貢献の意義を理解し、実社会が求める人間力を涵養することを目的とした「ボランティア科目単位履修制度」と連携した取り組みで、現地活動30h/人を、長期休暇 (夏期・春季) や週末休暇を利用して、市内に滞在しながら、2~4学科所属の横断的なメンバー5人程度からなるチームで行う活動である。限られた期間内で、集中して現地側のニーズを達成するのがミッションとなる。今回現地で応援したのは、農業まつりについては3年目、フラワーマーチについては10年目になり、両取り組みが恒例の現地応援活動として定着しつつある。またそれに伴って運営組織 (実行委員会や各種事業者、NPOなど) と大学との顔みえる関係性が築かれつつある。

b. 『プロボノ』スチューデント [サカ等学外地域貢献活動 (単位認定なし)]

専門的な知識や経験を活かしてボランティアで地域貢献をするプ



写真1~2 (上段) 冬ボラ! 食・農・防災にまつわるイベントサポート in 南房総市の様子

写真3~4 (下段) 春ボラ! ウォーキングイベントサポート in 南房総市の様子

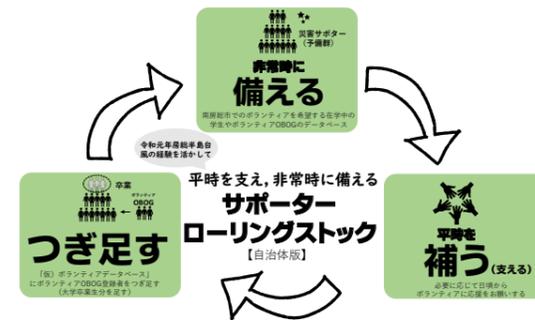


図1 サポーターローリングストック【自治体版】の概念図

域学協働の工夫!

- ★市民活動・コミュニティ活動の再始動応援では、ブル型の市民活動応援だけでなく、時にはプッシュ型の市民活動応援も
- ★大学関係人口を地域ニーズや地域の活動団体へと導く関係案内所としての可能性を秘めた地域づくり協議会と大学との新たな広域連携の関係づくり
- ★学生にはボランティア以降地域への「関わりしろ」を見つけるうえでのヒントを地域側より提供してもらい、地域や団体・人との関係性の階段を上っていくうえでの具体的な方法 (貢献形態、学内カリキュラム) も紹介

ロボノを実施した (表2)。この取り組みについては、大学の単位取得等に関係なく、地域ニーズに対応できる有志メンバーで取り組まれた。ここでは期間も定めず、あくまでもニーズに答える成果を達成することがミッションとなる。本年度の現地の応援団体 (担い手) としては、まほろば夢楽まつりの映像作品の上映関連で地域づくり協議会みよしを、白間津大祭関係で白間津大祭実行委員会を対象としている。

(2) 非常時に備えた人材育成 ~3つの工夫~

地域と大学関係人口が関係性の階段をのぼり、「平時をささえ非常時の備え」として期待できるまでになる (ファンからサポーターになる) ためには、現地でボランティア活動をするだけではこと足りず、学生らが地域や市民活動への想い (関心) を高め、かつ自ら地域コミュニティや市民団体、行政との結びつき (関与) を高める、もしくはできると思うきっかけづくりが重要となる。そこで本プログラムはこれまで以下の取り組みを絡めながら現地活動を実施した。

a. 地域の魅力にも触れてもらいまずは南房総のファンになってもらう工夫

まずは期間中、学生ボランティアにできるだけ南房総の自然やひとなどの魅力に触れてもらい南房総のファンになってもらうことを意識した機会づくりに取り組み。次に、活動に先立ち、南房総市での地域活動 (暮らし) や農業 (生業) の実状を知ってもらい、地域のヒトへの共感を促すような機会を設けた。そして活動ではその後の

表1 地域の担い手に対する合宿ボランティア応援 (2025)

| 分類 | 実施期間 | 活動内容 | 実施地域 | 学生ボランティア |
|------------|---------------|---|-------------|----------|
| ボランティア【現地】 | 8/6 (1日間) | SDG's チャレンジ夏ボラ! 小学生自然体験学習支援ボランティア in 南房総市 (小学生向け夏休み特別企画 確立体験支援・南房総市里山体験拠点の周辺整備と生垣観察・体験メニュー企画づくり、丸山川水辺の生きもの観察会ほか) ※富山地域づくり協議会ふらっとみねおかいきいき館 ※学生応募状況を鑑み学生ボランティアは中止 | 富山 | 他県1名 |
| | 1/17~19 (3日間) | SDG's チャレンジ冬ボラ! 食・農・防災にまつわるイベントサポート in 南房総市 (丸山農業まつり運営協賛・運営補助 / 峰岡牧の遊歩道整備ほか) ※丸山農業まつり実行委員会 / 南房総防災研究会 | 千倉/丸山 | 7名 |
| | 2/14~16 (3日間) | SDG's チャレンジ春ボラ! ウォーキングイベントサポート in 南房総市 (南房総フラワーマーチの会場設営協賛・運営補助、南房総市花畑再生プロジェクト管理園場の草刈りほか) ※南房総フラワーマーチ実行委員会 / 南房総市花畑再生プロジェクト協議会 | 白浜/千倉/和田/丸山 | 7名 |
| | 計7日間 | 現地活動30h/人 × 14名 = 累積420h、4団体の応援活動 | 全5地域 | 14名 |

表2 地域の担い手に対するプロボノ応援 (2025)

| 分類 | 実施期間 | 活動内容 | 実施地域 | ボランティア |
|-------------|-------------|--|--------------|-----------|
| プロボノ【現地+遠隔】 | 4月~5月 (2ヶ月) | ●「まほろば夢楽まつり」映像作品の制作 (遠隔) ~前年度からの継続~ 内容: 「まつり編」と「インタビュー編」の2部構成の作品制作にむけ 編集 / 定例会議 (月1回) / メンバー会議 (随時) ほか ●「まほろば夢楽まつり」の映像放映【現地】 日時: 令和7年5月2日 場所: 南房総市役所三芳分庁舎 内容: 地域づくり協議会のメンバーを中心とした関係者に放映 ●千葉工業大学文化の祭典【学内】 日時: 令和7年5月11日 場所: 千葉工業大学津田沼校舎 内容: 文化祭の一般来場者向けに放送研究部ブースにて放映 | 三芳 + 習志野・津田沼 | 放送研究部学生5名 |
| | 9月~2月 | ●令和9年白間津オオマチ (大祭) 実行委員会 1~3回 | 千倉 | 教員1名 |



写真5~6 学生むけ防災教育とチームで働く力の養成を兼ねた体験

地域や市民活動への「想い」の強さを左右する「褒められる」「役に立つ」実感を、プロボノではそれらに加えて「期待される」「必要とされる」実感を得られるような場づくりを心掛けた。

b. 学生むけ防災教育

災害時に地域の担い手の役割を補完できる大学関係人口を育成するには、市内で防災・減災に関わる活動をしている団体の考え方に触れ、応援活動等を通じてその意図への理解を深めることが重要である。本年度は、それを踏まえて以下のプログラムを現地応援活動と絡めて企画し実施した。

=R7 活動 =

- ・1月 防災研究会「地域水道学習会&意見交換会」への学生参加
- ・1月 農業まつりでの防災・減災啓発活動に絡めた地域づく協議会 まるやま 防災部会「セーフティまるやま」の支援 (写真5,6)

防災研究会「地域水道学習会&意見交換会」では、NPO による地域水道支援活動の紹介や地元自主防災組織より南房総市大井水道の「水問題」の解説、現場視察と参加者との意見交換へ学生が参加した。その結果、参加学生の7人中6人は、「少し意識が向上した」「5. すごく意識が向上した」ことが確認された。よって、今回のような講座や意見交換の機会は内容に偏りが見受けられたものの概ね学生の防災意識を向上させることが明かになった。また本年度は、

表3 AISAS理論にもとづく学生ボランティアの行動モデルと新たな取組と学生からの評価

| 2025 『南房総市でのボランティア等アワード』 | 潜在層 | | | 顕在層 | |
|-----------------------------|--|---|---|--|---|
| | 認知 Attention | 関心 Interest | 検索 Search | 行動 Action | 共有 Share |
| 【学生】 本PJが目指す状態の変化 | 知らない →知っている | 知っている →気になる | 気になる →検索する 令和7年度 | 問い合わせない →まずは問い合わせる →応募する | 感想をシェアしていない →感想等をシェアする |
| 【学生⇔南房総市】 コミュニケーション目標 | できるだけ多くの見込み学生(科目履修者、全体がリス受講者)に情報が伝わるように発信する | 学習支援システムの掲示板等で「南房総市での学生ボランティアのイベント」を分かりやすく伝える 視点2 | 工大生の検索エンジンによる検索結果においても、上位表示されるような対策をうつ | スムーズに応募、書類のやり取り等ができるように誘導する(応募～計画書提出までのリードタイムを短くする) 視点1 | 南房総市での体験に対する満足度や感想を共有したくなる工夫を行う |
| 【本PJ】 新たな取組と学生からの評価(R7) | ●あたらな取組 ●manaba掲示板の特別表示 ・タテ制限8字 ・ボランティア募集情報は見に行かないと獲得できない(偶然に目にしない) ・科目登録前、未登録学生にも関心あり | ●HP「体験談」 ・「体験談」欄までの導線が悪く見逃す人(スクロールしてまで見ない) ・文字より動画 ・現地関係者目線の感想や呼びかけも大切 | ・manaba以外の一般的検索エンジンを使った検索で見つけてもらい易い情報発信(例: XやInstagramやSNS) | ●応募フォーム ●HP「概要」 ・事前に不安を解消でき、気軽に問い合わせができる方法がない(例: chatbotやQ&Aページ) ・発信やメールでの問い合わせはハードルが高い | ●後援にむけたメッセージ依頼 ・ボランティアの感想・風景を簡単に投稿できるチャットがない(webフォーム、SNS) ・発信もボランティアからは動画 |



図2 logo ホームを使った「Web応募フォーム」の作成

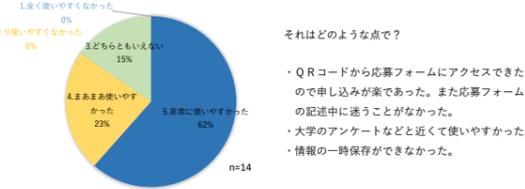


図3 参加学生による「Web応募フォーム」の使いやすさ評価

防災の基礎的な知識、特に家庭や地域での備蓄について、応援しながら学ぶべく「行政機関の実施する備蓄品試食体験」の取り組みや、「イベントでの防災啓蒙活動」、「自主防災組織の平時取り組みや非常時での取り組み」に触れられる機会を盛り込んでいる。

c. 社会人基礎力(特にチームで働く力)の養成

平時や災害時における現場での市民活動は、いずれもチームでの活動が基本となり、多様なメンバーや協働パートナーとともに目標にむけて協力する力(チームで働く力)が重要となる。本ボランティアプログラムでは、社会人基礎力養成の一環として「チームで働く力(社会基礎力の1つの柱)」の養成に力を入れた。実施にあたっては、市内のボランティア活動は原則複数の学科に所属する学生チームで活動することや活動の前後途中では昨年度開発した「社会人基礎力診断・成長シート」を活用してメタ認知を促す機会を設けることなど点を工夫しながら行った。

(3) 持続可能な仕組みづくり

本PJでは、2024年度よりボランティア等を通じた大学関係人口と地域側がその関係性を平時から“蓄え(ストック)”,継続的に“育て(つぎ足し)”,非常時に備えるという「サポーター R.S.」の概念を軸にした持続可能な仕組みづくりの方針を検討してきた。本年度はそのしくみづくりの具体的な取り組みとして「学生ボランティアの対流促進」と「人材バンク」の2つの側面からすすめた。

a. 「学生ボランティアの対流促進」しくみづくり

- ＝R7活動＝
 - ・6～7月 logo ホームを使ったボランティア申し込みのための「Web応募フォーム」の作成
 - ・10～11月「南房総ボランティアHP」(千葉工大版)の制作
 - ・1～2月 学生による評価, 改善アイデアワークショップの実施
- サポーター R.S. をしくみとして実装して行くためには、毎年一定数の学生ボランティアが大学と南房総市を往來することが関係性(ストック)を更新するうえでも重要である。そこで本PJではボランティア

ア単位認定制度を組み込む形でボランティアツアーを企画してきた。

その上で昨年はボランティア募集～応募, 実施まで現状としてどのような課題があるのかを「AISAS」理論にもとづくフレーミングで整理した(表3)。本年度は、その中から代表的な「応募の手続き開始から手続き完了までのリードタイムが長い」「応募に至るまでの判断材料が少ない」といった課題に対し、その改善策として「Web応募フォームの設置」と「南房総市ボランティアHP(簡易版)」を作成し実装した。その上で参加学生14名に実際に使用感を評価してもらい効果を検証した。その結果、応募フォームについては、「5.非常に使いやすかった」「4.まあまあ使いやすかった」で85%にも及び高い効果が確認できた(図3)。一方、「南房総ボランティアHP」内の大学の単位認定制度の手続き「概要」や「OBOGの体験談」については、「参考になった」学生と「みていない」学生とに大分された(図4)。「みていない」学生の理由としては、「存在を知らなかった」など情報に辿り着いてないケースが散見され、対策が求められた。また使用感の評価と併せて、改善アイデアワークショップを実施しており、学生目線での運用アイデアとともに新たな問題意識が提起された。これらはいずれも今後の持続可能なしくみづくりの方向性を定めるうえでの一助となるものと考えられた(図7)。

b. 非常時に備えて「関係性を継続する」人材バンク(本PJでは『絆バンク』と仮に称す)の運用にむけた実現可能性の検討

- ＝R7活動＝
 - ・6月 南房総市社会福祉協議会「ボランティア登録制度」についてのヒヤリング調査とサポーター R.S. についての意見交換
 - ・1月～2月 参加学生への絆バンクへの登録意思確認
- 本年度は、サポーター R.S. の考えに基づいて管理される絆バンクの効率的な管理運用法を市内の既存ボランティア登録制度との連携可能性を探るべく、6月に市内にある既存のボランティア登録制度についてのヒヤリングを実施した。その結果、当該登録制度は「対象が市内で活動したい個人・団体」向けであること、必ずしも災害



図4 南房総ボランティア HP 「概要」欄(左)
図5 南房総ボランティア HP 「体験談」欄(下)

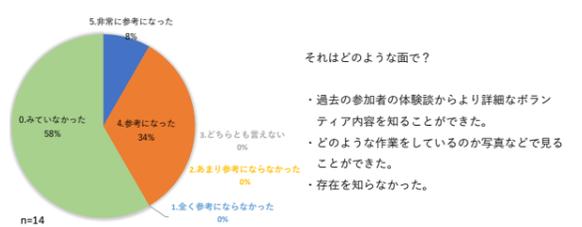


図6 参加学生による「体験談」欄の評価

図7「概要」欄と「体験談」欄の改善方針(KPTのフレームワークより)

| Keep【継続すべきこと】 | Try【新たに挑戦したいこと】 |
|---|--|
| =南房総市ボランティアホームページ ①「概要」欄 千葉工大ボランティア科目 単位申請の手続きや提出書類について図表で分かりやすく紹介 | (良かったことをさらに良くするには?) →「後援へのメッセージ」を紹介(成長できたこと、おすすめ理由、ここがよかった点) |
| ②「体験談」欄 ・ページ内の表示位置が「概要」欄「募集欄」と同ページ下部にあり見つけにくい。 ・スクロールしないと「体験談」欄に辿り着けない。 | (その問題を解決するには?) *前提: 公式HP作成にあたっての基本ルールに従う →1記事/1ページで「概要欄」と「募集欄」「体験談」とのページをわける →ページ内リンクを上手に利用する |
| Problem【改善すべきこと】 (考えられる原因) =南房総市ボランティアホームページ ①「体験談」欄 ・市公式HP作成にあたっての基本ルール | |

時の地域のバックアップ人材確保を期待するものでないこと、からサポーター R.S. で蓄積される登録情報を包含するものでないことが明かとなった。しかし意見交換を通して、社会福祉協議会のボランティア担当は(「サポーター R.S. と) 社協とも連携することで、平時からの地域貢献と災害時のボランティアセンター立ち上げ等の際の運営人材確保の両立とさらなる拡がり期待できる。」「社協としても、災害時の「内部ボランティア」(運営サポートなど)の募集においては、サポーター R.S. データベースと連携して、学生ボランティア募集をしたい。」旨を確認するに至っている。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

- ・本年度は市内4団体(うち3つは実行委員会と協議会)へ14名の学生が、累積420時間分(30h×14人)の現地活動と事業継続をサポートした。
- ・平時の地域活動の応援活動については、パートナー団体に概ね満足してもらえた。高齢者中心の催しにおける支援活動では、学生ならではの役割やその効果について好評で、幾つかの団体からは早速次年度の協力要請もあった。
- ・参加学生の86%は、南房総市が自然災害で被災するなど不測の事態に見舞われた際にボランティアやプロボノへの協力要請の通知を地域側から受けること(在学中)を許諾するまでに至った。そしてその通知可能期間は、参加学生が1～3年生の学生であることを踏まえると残りの在学期間にあたる1～4年間となる。また参加学生の中には館山や君津在住の学生もいた。つまり本年度の取り組みを通じて地域には、不測の事態にむけて今後1～4年間、新たにバックアップ人材として期待できる関係人口(近隣在住の学生も含む)を獲得できたとも言える。
- ・人材育成面では、市の担当職員にも本プログラムの企画～運用、

*表彰・マスコミ掲載など
 ・令和7年度 市町村と市民活動団体との連携促進事業に係るアドバイザー派遣活用事業(千葉県)、八街市 令和7年度協働のまちづくり職員研修会・第2回区長会勉強会「講演協働(コラボ)のパートナーとしての地域と行政」と「グループワーク&アプリケーション: 区加入者応援店事業の取組をさらに拡大しよう」を担当, 2025.9.25
 ・令和7年度 市町村と市民活動団体との連携促進事業に係るアドバイザー派遣活用事業(千葉県)、茂原市 まちびとカフェ特別編「講演: 私たちのまちは、私たちの手で- 現場のリアルと協働の進め方のヒントを探る」, 「グループワーク&アプリケーション: 自分たちの協働事業をステップアップさせよう! (協働診断・協働戦略立案)」を担当, 2025.12.19